



長女の卒乳後に再び、1年間と決めて婦人科通いを再開し、漢方との両輪で二人目に向けて走ってきました。なかなか結果が出ず、不妊治療はこれで最後と決めた7回目の人工授精で、思いがけず授かり40歳での妊娠期間が始まりました。

長女の時一切トラブルなく過ごせた妊娠期間も、今回は超高齢出産で懸案事項だらけの妊娠期間でした。胎盤が低いに始まり、低置胎盤と診断がつくと胎盤の位置次第では1時間以上離れた大学病院への転院の可能性が出て、出血したら流産の可能性がでてしまうとの事で、自宅安静のような妊娠中期を過ごしました。健診のたびにお店に寄り、状況を説明し、その都度調合して頂いた漢方のおかげもあり、胎盤の位置も低いながら普通分娩可能な位置に変わり、出血もなく臨月を迎える事ができました。出産時に大量出血の可能性があるとの事で、自己血を備える事になりましたが、貧血・造血対策の漢方のおかげで出産時は、長女の時より少ない出血量で済み、産後に自己血の輸血も必要なく、時間はかかったものの安産の末、今度は男の子が誕生しました。

初期流産で始まった最初の妊娠から二人目誕生までの長い妊活、約6年に渡り慈恵堂さんには親身にしていただき、本当に感謝しております。おそらく慈恵堂さんの門をたたかなければ、子どもを授かることは出来なかったと思います。長い間、本当にありがとうございました。

(M・Yさん)

